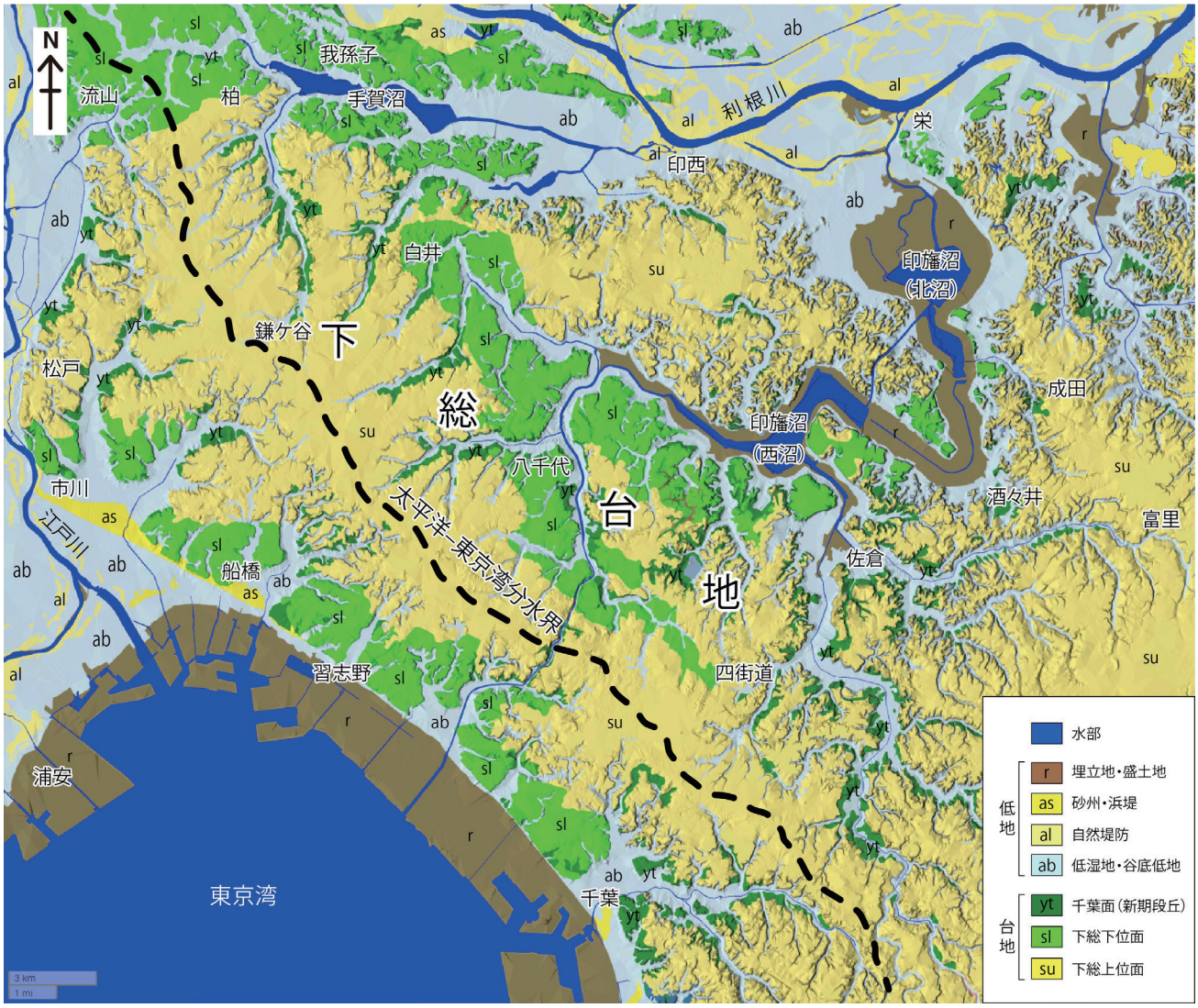
第 1 章　地　形

（中澤　努）

千葉県北部地域には広く下総台地が発達する（第 1.1 図）．その北縁には利根川が，また西縁には江戸川と東京湾が存在し，それら河川沿い及び湾岸域には低地が発達する（第 1.1 図）．

1．1　台地

千葉県北部地域の下総台地の地形面は，杉原（1970）により，上位から順に，下総上位面，下総下位面，千葉段丘に区分されている．このうち千葉段丘は杉原（1970）により千葉第 1 段丘と千葉第 2 段丘に分けられているが，両者の比高は小さく，区別が難しいことが多いため，本稿ではこれらの段丘面を千葉面として一括した．なお下総上位面は横浜地域の下末吉面，下総下位面は同じく小原台面，千葉段丘は三崎面に相当する（杉原，1970）．それぞれの離水年代は下総上位面が MIS 5e，下総下位面が MIS 5c，千葉面が MIS 5a ～ MIS 4 である．このうち最も広く発達するのは MIS 5e の下総上位面である（第 1.1 図）．下総上位面は下総層群木下層の堆積面であり（杉原，1970），木下層の堆積環境の違いによりもともと多少の凹凸はあったと考えられるが，現在は地形面の標高が調査地域東部の富里市で 40 m，調査地域北西部の柏市付近で 20 m と，東に高く北西に低くなる傾向がみられる．下総下位面は，木下層を侵食して分布する河川成の常総層の離水面であり（杉原，1970），調査地域の中央部や北部に発達がみら



第 1.1 図　千葉県北部地域の地形.

れる（第 1.1 図）．下総上位面とは数 m 程度の標高差があるが，境界に明瞭な段丘崖の発達はみられず，緩傾斜の斜面となっている．一方，千葉面は台地を開析する小規模な河川沿いに狭く分布がみられる（第 1.1 図）．

なお，下総台地の南東－北西方向の軸部は，太平洋側と東京湾側を隔てる分水界となっており，太平洋－東京湾分水界（楡井，1997）と呼ばれている．

1．2　低地

東京湾岸地域，江戸川・利根川沿い，及び台地を開析する小谷には低地が発達する（第 1.1 図）．低地は，低湿地・谷底低地，自然堤防，砂州・浜堤に分けられる．自然堤防は江戸川や利根川などの比較的大きい河川沿いの微高地として発達する．砂州・浜堤は海岸沿いの微高地として認められるが，東京湾岸地域では旧海域を広く埋め立てしているため，現海岸線から離れた昔の海岸線沿いに砂州・浜堤がみられる．河川沿いの自然堤防や砂州・浜堤の背後には低湿地が発達する．台地を開析する小谷にも低湿地が広がる．これらの低湿地は，現在は水田に利用されるか，あるいは宅地化されていることが多い．東京湾の湾岸域には埋立地が広く形成されている（第 1.1 図）．また，印旛沼（いんばぬま）周辺では干拓された地域が盛土されている（第 1.1 図）．